

NPO法人サロン2002 公開シンポジウム2020

# 「With/Afterコロナ」の時代に向けて

## —コロナ禍でみえた“ゆたかな暮らし”の新しいすがた—

2020年は東京でオリンピック・パラリンピックが開かれる年でした。しかしやってきたのは「新型コロナ」。あらゆる場面でわたしたちの日常は失われ、いまも世界中で多くの人が苦しんでいます。

特定非営利活動法人サロン2002は、スポーツを通しての“ゆたかな暮らしづくり”を“志”とするNPOです。私たちは、「生きる」だけならなくてもよいが、「よりよく生きる」には欠かせない文化としてスポーツやアートをとらえています。そして、「生きる」ためにこれらの文化的な活動が制限されるのはやむを得ないと考えてきました。

まったく先の見えない状況から、いまはコロナとの付き合い方を考えながら日常を取り戻す、「With コロナ」の段階です。「よりよく生きる」ための諸活動も徐々に再開しています。また、課題山積のコロナ禍だからこそ、新たな可能性に気づくことも多く、“ゆたかな暮らし”の新しいすがたがみえてきたと感じています。

登壇者はいずれもサロン2002の会員・メンバーです。異なる職種、地域で活動しながら、いずれも「新型コロナ」に向き合う1年を過ごしました。本シンポジウムでは全体を2部構成とし、前半は「イベント」を、後半は「日常生活」を中心に取り上げ、それぞれの経験を「After コロナ」にいかにつなげていくかを皆さんと共に考えていきたいと思っております。

公開シンポジウムは初のオンライン開催です。いつでも、どこからでもご参加いただけます。多くの方々にお集まりいただき、「After コロナ」の時代に向けた第一歩になれば幸いです。

特定非営利活動法人サロン2002

理事長 中塚義実

### 記

主催：特定非営利活動法人サロン2002

後援：未定

日時：2020(令和2)年12月13日(日)

第1部：10:00～12:00(9:45から入室可能です)

第2部：16:30～18:30(16:15から入室可能です)

懇親会：18:30～20:30(オンライン懇親会)

会場：Zoomを用いたオンライン(それぞれの居場所から参加できます)

※参加申込いただいた方に前日までにZoomのURLをお送りします。

演者とトピック：

第1部 コロナ禍でみえた“ゆたかな暮らし”の新しいすがた—「イベント」を中心に

10:10～10:35 宇都宮徹壺(写真家・ノンフィクションライター) … スタジアムからみえるもの

10:35～11:00 土谷 享(現代アートユニットKOSUGE1-16) … まつりとアートとスポーツと

11:00～11:25 本多克己(NPOサロン副理事長) … U-18フットサルからみえるもの

11:25～12:00 クロストーク

第2部 コロナ禍でみえた“ゆたかな暮らし”の新しいすがた—「新しい日常」を中心に

16:40～17:05 田中理恵(会社員/「リモート旅行部」共同主宰) … 働き方の変化とリモート旅行の試み

17:05～17:30 春日大樹(某日系総合電機メーカー上海支社所属) … 海外勤務で感じたこと

17:30～17:55 岸 卓巨(A-GOALプロジェクト代表/NPOサロン事務局長) … 休み時間はアフリカに

17:55～18:30 クロストーク

コーディネーター 中塚義実(NPOサロン理事長/筑波大学附属高等学校)

参加費：無料

参加申込：下記アドレスからご登録ください。

<https://salon20022012.peatix.com/>

問い合わせ：salon2002.info@gmail.com(担当:岸卓巨)

## ＜特定非営利活動法人サロン 2002 とは＞

特定非営利活動法人サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とする NPO です。

全国各地にいる約 100 名のメンバーは、学校関係者、スポーツ指導者やトレーナー、スポーツクラブの運営に携わる方、フットサルや草サッカーの関係者、メディア関係者、サポーターやボランティア、スポーツ行政に携わる方や競技団体関係者、医者や弁護士、アーティストなど多種多様です。さまざまな角度からスポーツに携わり、“志”の実現に向けて活動する者で構成されるのが「サロン 2002」です。

NPO 法人サロン 2002 の主たる活動は、2020 年 12 月で通算 290 回となる月例会の開催と、その内容を軸とするホームページの運営です。2020 年度の月例会はすべてオンラインで開催し、「新型コロナ」にどう向き合うか、「with コロナ」の時代に向けてをメインテーマに、メンバーがさまざまな話題を取り上げました。

公開シンポジウムは 2001 年度よりほぼ毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。今回は月例会の流れをくむ形で企画されました。

詳細はホームページ<<http://www.salon2002.net>> をご覧ください。

### ＜サロン 2002 公開シンポジウム＞

2001 年度…FIFA コンフェデレーションズカップ総括  
2002 年度…FIFA ワールドカップ総括  
2003 年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境  
2004 年度…totoを活かそう！  
2005 年度…クラマーさん、ありがとう！  
2006 年度…2006 年ドイツで感じたこと  
2007 年度…サッカー観戦を楽しもう！-スタジアム編  
2008 年度…地域からみたJリーグ百年構想  
2009年度…2019年ラグビーワールドカップを語ろう！  
2010年度…育成期のサッカーを語ろう！  
2011年度…高校サッカー90年史を語ろう！  
2012年度…U-18フットサルを語ろう！  
2013年度…スポーツクラブの法人化を語ろう！  
2015年度…スポーツで“ゆたかなくらし”を！  
2016年度…日本サッカーのルーツを語ろう！  
2017年度…Before2002,After2020-サロン20周年記念  
2018年度…部活動を語ろう！  
2020年度…ラグビーワールドカップ2019を語ろう！

### サロン 2002 設立宣言

(2000 年 4 月 1 日)

我々は、以下に「サロン 2002 の“歴史”」、「サロン 2002 の“志”」及び「サロン 2002 の“会員”」を述べることに  
より、ここにあらためてサロン 2002 の設立を宣言する。

#### 【サロン 2002 の“歴史”】

サロン 2002 は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社・心グループ」(財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980 年代後半からこの名称で活動)を前身とし、1997 年からは研究者という枠にとらわれない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン 2002」として活動を行ってきた。

#### 【サロン 2002 の“志”】

サロン 2002 は、サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン 2002 の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン 2002 の“志”を実現する上で、2002 年 FIFA ワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

#### 【サロン 2002 の“会員”】

サロン 2002 は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。

サロン 2002 の“志”に賛同した個人であれば、誰でも、“会員”となることができる。ただし会員は、サロン 2002 からの“Take”を求めるだけでなく、サロン 2002 に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン 2002 は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

## 登壇者プロフィール

登壇者は全員、サロン 2002 の NPO 会員またはネットワークメンバーです。

### 第 1 部 演者

#### ◆宇都宮徹壺（写真家・ノンフィクションライター）

東京藝術大学大学院美術研究科修了後、TV 制作会社勤務を経て、97 年にベオグラードで「写真家宣言」。以後、国内外で「文化としてのフットボール」をカメラで切り取る活動を展開中。

著書に『ディナモ・フットボール』（みすず書房）、『股旅フットボール』（東邦出版）など。『フットボールの犬 欧羅巴 1999-2009』（同）で第 20 回ミズノスポーツライター賞最優秀賞、『サッカーおくのほそ道』（カンゼン）で 2016 サッカー本大賞を受賞。近著『フットボール風土記』（カンゼン）。2016 年より宇都宮徹壺ウェブマガジン（WM）を配信中。<http://www.targma.jp/tetsumaga/>

#### ◆土谷 享（現代アートユニット KOSUGE1-16）

2001 年より土谷享と車田智志乃の美術家ユニット KOSUGE1-16 として活動を開始。現在はこれまでの活動コンセプトを引継ぎ、土谷が代表として活動している。主な受賞歴「第 11 回岡本太郎現代芸術賞展」岡本太郎賞。主なアートプロジェクト 2016～19 年「PLY MAKERS SENDAI」せんだいメディアテーク art node project、2018 年「MΩCHI SCRAMBLE」高知県立美術館 等。主な個展 2012 年「THE PLAYMAKERS」Mac Birmingham（英国）等。主なグループ展 2010 年「こどものにわ」東京都現代美術館 等。主な国際展 2005 年「横浜トリエンナーレ」、2010 年「あいちトリエンナーレ」、2019 年「瀬戸内国際芸術祭」。

#### ◆本多克己（㈱シックス／NPO サロン副理事長）

1999 年に現役最年長サッカーライターの賀川浩と株式会社クラブハウス、2008 年に株式会社シックスを設立。国内最大のフットサル大会「ホンダカップ」をはじめとしたサッカー、フットサル事業に取り組んでいる。神戸アスリートタウンクラブ理事長、オーキック理事長、一般社団法人日本フットサル施設連盟理事、元奈良女子大学非常勤講師。NPO サロン 2002 では、U-18 フットサル、広報などを担当している。

### 第 2 部 演者

#### ◆田中理恵（会社員／「リモート旅行部」共同主宰）

調査会社に勤務し、オフタイムは旅を楽しむ元ダイビングガイド。

コロナ禍でオンライン会議三昧となったステイホーム期間中に、旅仲間がテレビ番組で「リモート世界旅行」のナビゲーターを務める姿を見て、5 月から仲間たちとオンラインで観光地を楽しむ旅を始めた。

最近のオンタイムは出社とリモートを併用しながら、様々な業種のコロナ禍の影響についてお聞きする日々。

#### ◆岸 卓巨（「A-GOAL プロジェクト」代表／NPO サロン事務局長）

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構で働くサラリーマン。元 JICA 海外協力隊ケニア隊員。

新型コロナの影響を受け、準備を重ねてきた東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が決まる中で、ケニアの貧困地域でサッカークラブを運営する知人からメッセージが入った。「コロナの影響で多くの住民が生活に困窮している」。5月16日に A-GOAL プロジェクトを立ち上げ、アフリカ現地の地域スポーツクラブをハブに緊急支援活動を開始。ケニア・ナイジェリア・マラウイの3カ国で15のクラブと連携し、80名以上のプロジェクトメンバーとともに、7,000人以上に食糧や衛生用品を配布。9月末には支援金獲得を目的に24時間のオンラインイベントを開催し、オルンガ選手（柏レイソル）などアフリカ出身アスリートなど多数参加。活動は現在も継続中。

今回のシンポジウムでは、「日常生活」の視点から怒涛の半年を振り返ります。

◆春日大樹（某日系総合電機メーカー 上海支社所属）

1991年生まれ、京都府出身、筑波大学人文学類、筑波大学大学院人文社会科学研究科修士  
学部時代は筑波大学蹴球部（中塚理事長の後輩に当たります）に所属し、体育系学生に交じってサッカーに打ち込みつつ、専攻であるドイツ言語学を学ぶ。学部時代、大学院時代合わせて一年半ドイツに滞在し、現地アマチュアチームに所属しプレーしつつ、ドイツ語の研究に取り組む。

2017年就職、1年目から海外営業部に勤務し、2019年より上海へ出向、現職に就く。

20代にして居住国3か国目、コロナ下での海外生活について赤裸々にお話できればと思います

コーディネーター

◆中塚義実（筑波大学附属高校／NPO サロン理事長）

1987年の着任以来、同じ学校で保健体育科教諭・蹴球部顧問として高校生の指導に当たる。

前身の「社・心グループ」時代からNPO法人化した現在に至るまで、サロン2002とともに歩みながら「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」に取り組む。

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）運営委員、日本部活動学会理事、日本ヤタガラス協会副会長、全国高体連研究部活性化委員、東京都サッカー協会フットサル委員会ユース（2種・3種）部会長など。著書に『少年のためのサッカー入門』（長岡書店）、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』（かもがわ書店）、『運動部活動の理論と実際』（大修館書店）など。

今回は、第1部をU-18フットサルリーグチャンピオンズカップ開催の長野県千曲市から、第2部を職場近くの東京都文京区から進行する予定です。